摩　擦

やぶちゃん

“キィー”

あたり一面にひびくブレーキ音。

周りの人々、いやそれどころでは無い！
付近お家々の窓を開けてのぞく人々の顔・顔・顔・・・

誰もが、悲惨な現場を想像した。
明らかに、そう思わせるような強烈なブレーキ音だった。

普段と変わらぬ日常が。

しかし、音のしたあたりには・・・

普段と変わらぬ車の列が。
そして普段と変わらぬ渋滞が。
ただ、あるだけだった。

しかし、間違いなくそのブレーキ音はした。
周りのすべての人たちが間違いなく聞いたのだ。

しかし、目に入るすべての光景は普段の日常となんら変わることは無かった。

突然の轟音と猛烈な強風が！

“キィー”

すさまじい轟音がまたもや、鳴り響いた。

そして今度は猛烈な強風が襲ってきた。

“ゴォー”

そして、すべての人々が、車が、家々が・・・
そして世界が吹き飛ばされた。

遠のく意識の中で！

世界中の人々がその音を聞いた。
世界中の人々がその強風にあった。

もちろん私もその中の一人だった。

でも、もう遅かった。
世界中の人々が逃れることの出来ない現実だった。

『こんな、終わり方をする筈ではなかったのに』
遠のく意識の中でそう思った。

おそらく、世界中の人々がそう思ったに違いない。

摩擦！

日常を！世界を！いや宇宙を・・・

支えてきたのは 【摩擦】 だったのだ。

重力加速度が
遠心力が
相対性理論が・・・

でも人間が生きていく上において一番大事だったのは【摩擦】だったのだ。

歩くことも、走ることも、登ることも。。。

でも今その摩擦がすべてを葬り去ろうとしている。

そして静寂が戻った

そして、すべてが終わった。

静寂が！！！
いや、その静寂はただ人間が感じた、いや想像した世界。

実際は、けたたましい言葉に出来ないほどの摩擦音が太陽系にこだました。

地球の自転が突然止まったのだから。

慣性力よって営まれていた世界が、空気そして水あらゆる物質の摩擦によって砕け散ったのだから。

でも、宇宙は静かだった。
静寂のままだった。

だって、その摩擦音さえ宇宙を満たすエーテルや暗黒物質の摩擦によって減衰していくのだから。

摩擦

http://p.booklog.jp/book/37938

著者：やぶちゃん
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/yabucyan-booklog/profile

表紙の画像は
「コズミックフォト・宇宙の写真特集」
の画像をデフォルメして使用しました。

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/37938

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/37938

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.